



## 師走に考える ～子どもの時間・大人の時間～

副校長 髙原 佐知子



早いもので、2025年を締めくくる月「師走」を迎えます。11月の運動会では、子どもたちの日頃の努力の成果をご覧いただき、誠にありがとうございました。12月には音楽会が行われます。子どもたちの奏でる歌声や音色に包まれる、心温まる

ひとときをぜひお楽しみください。

さて、12月はお正月に歳神様をお迎えするための準備をする期間でもあります。私が子どもの頃、毎年12月になると祖父母の家でお餅つきをしていました。庭の釜戸から立ち上がる蒸気、薪の燃える匂い、蒸し布に包まれたもち米の温かさなど、今でも鮮明に思い出されます。私は打ち粉の上でつきたてのお餅を丸め、鏡餅を作る手伝いをしました。出来上がるまでの時間がとても長く感じ、「まだ?」「あとどれぐらい?」と、何度も聞いていた記憶があります。つきたてのお餅の味は格別でしたが、子どもにとっては長い1日でした。

歳を重ねるにつれて、1年や1日の長さが年々短く感じられるようになります。この現象は「ジャネの法則」と呼ばれています。19世紀のフランスの哲学者のポール・ジャネが発案し、甥の心理学者ピエール・ジャネの著書で紹介しました。法則によると、人間の体感時間は「それまで生きてきた年齢に反比例する」とされています。

例えば、50歳の人間にとっての1年は50年のうちの1年=1/50(年)ですが、10歳の子どもにとっての1年は、10年のうちの1年=1/10(年)です。同じ「1年」でも、子どもは大人の5倍以上の長さを感じていることになります。

母親が「あと10分待っててね」と言うと、子どもが何度も「まだ?」「あと何分?」と繰り返し聞くことがあります。子どもにとっての10分は、大人にとっての50分ほどの感覚なのです。また、「すぐ行こうね」と約束していたお出かけが「再来週に変更」と聞いて怒る子どももいます。子どもにとっての2週間後は、大人の2カ月半後のように感じられるからです。

私自身も子どもの頃、1日がとても長く感じられたはずですが、今は時間の感覚が早く感じられます。その中で、ときどき「大人の感覚を子どもたちに押しつけてはいないだろうか」と立ち止まって考えることがあります。

ご家庭でも、お子さんと接するときや約束事をするときに、「子どもの時間は大人の4~5倍」という感覚を少し意識してみてください。子どもの気持ちをより理解しながら、年末の家族行事などを進めていただければ幸いです。

最後になりますが、本年も保護者・地域の皆様には、本校の教育活動に多大なご支援とご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。新しい年が、皆様にとってさらによい年になりますようお祈りいたします。

## **特別支援教室の工事について**

2階の生活科・特活室を特別支援教室にする工事が始まります。校舎北側に足場を組んで、資材の出し入れを行います。来年2月頃完成の予定です。